

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4169982号
(P4169982)

(45) 発行日 平成20年10月22日 (2008.10.22)

(24) 登録日 平成20年8月15日 (2008.8.15)

(51) Int.Cl.

F 1

B 6 5 D 43/16 (2006.01)

B 6 5 D 43/16 Z

A 4 5 D 33/00 (2006.01)

A 4 5 D 33/00 6 1 0 E

A 4 5 D 33/00 6 5 0 Z

請求項の数 2 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2002-23890 (P2002-23890)
 (22) 出願日 平成14年1月31日 (2002.1.31)
 (65) 公開番号 特開2003-226344 (P2003-226344A)
 (43) 公開日 平成15年8月12日 (2003.8.12)
 審査請求日 平成16年11月30日 (2004.11.30)

(73) 特許権者 000006909
 株式会社吉野工業所
 東京都江東区大島3丁目2番6号
 (74) 代理人 100147485
 弁理士 杉村 憲司
 (74) 代理人 100134005
 弁理士 澤田 達也
 (74) 代理人 100072051
 弁理士 杉村 興作
 (72) 発明者 鈴木 一男
 東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会
 社 吉野工業所内
 (72) 発明者 嶋田 伸治
 東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会
 社 吉野工業所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ヒンジ式開閉容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

机やテーブルなどの接地面に載置可能な容器本体と、この容器本体に回動自在にヒンジ結合される蓋体とを備えるヒンジ式開閉容器において、

前記容器本体は、その内部に、2つのドラムを容器本体の幅方向に横並びに収納する凹部と共に、小物を収納する凹部が形成された別体の中枠を備え、

この中枠は、2つのドラムを収納する凹部と、小物を収納する凹部とを仕切る仕切壁と、この仕切壁からヒンジ結合部の反対側に向かって突出して小物を担持する天壁と、この天壁の末端から上方に起立して当該天壁に担持された小物の側面を押さえる上壁と、天壁の末端から容器本体の底部に向かって垂下する下壁とからなり、前記容器本体との間に空間を画成する、縦断面形状がH型のドーム部を有し、

前記空間は、前記蓋体が開く際の開放側端部と、ヒンジ部を設けたヒンジ部側端部との中間に位置する中心軸線から前記開放側端部までの開放側領域内に画成され、この空間内に、容器本体の幅方向全体に延在する重心調整用の錘を備えることを特徴とするヒンジ式開閉容器。

【請求項 2】

前記ヒンジ式開閉容器は、前記蓋体の内側に鏡を備えるコンパクトである、請求項 1 記載のヒンジ式開閉容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

10

20

【発明の属する技術分野】

本発明は、机やテーブルなどの接地面に載置可能な容器本体と、この容器本体に回動自在にヒンジ結合される蓋体とを備えるヒンジ式開閉容器に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

こうしたヒンジ式開閉容器は、例えば、コンパクトなどの化粧料容器として用いられるため、蓋体を開いた際に、この蓋体を適切な開き角度に位置決めした状態で、机やテーブルなどの接地面に載置できることが好ましい。

【0003】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、上記したようなヒンジ式開閉容器は、その一端がヒンジ結合された構造であるため、例えば、ヒンジ式開閉容器を大型化した場合、容器本体に収納した物品を取り出して、蓋体を開いたまま接地面に載置すると、コンパクトがヒンジ側の向きに転倒しやすくなるという不都合があった。特に、コンパクトとして用いたヒンジ式開閉容器にあっては、蓋体の内側に鏡を配置する場合があるため、コンパクト自体の大型化を図ろうとすると、コンパクト全体としての重心が蓋体に移動してしまい、こうした転倒の問題が顕著に表れる。

【0004】

本発明は、上述した事実に鑑みてなされたものであり、蓋体を開いたまま接地面に載置することができるヒンジ式開閉容器を提供することを目的とする。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

本発明であるヒンジ式開閉容器は、机やテーブルなどの接地面に載置可能な容器本体と、この容器本体に回動自在にヒンジ結合される蓋体とを備えるヒンジ式開閉容器において、容器本体は、その内部に、2つのドラムを容器本体の幅方向に横並びに収納する凹部と共に、小物を収納する凹部が形成された別体の中枠を備え、この中枠は、2つのドラムを収納する凹部と、小物を収納する凹部とを仕切る仕切壁と、この仕切壁からヒンジ結合部の反対側に向かって突出して小物を担持する天壁と、この天壁の末端から上方に起立して当該天壁に担持された小物の側面を押さえる上壁と、天壁の末端から容器本体の底部に向かって垂下する下壁とからなり、前記容器本体との間に空間を画成する、縦断面形状がH型のドーム部を有し、前記空間は、蓋体が開く際の開放側端部と、ヒンジ部を設けたヒンジ部側端部との間に位置する中心軸線から開放側端部までの開放側領域内に画成され、この空間内に、容器本体の幅方向全体に延在する重心調整用の錘を備えることを特徴とするものである。

【0006】

本発明であるヒンジ式開閉容器は、上記発明において、蓋体の内側に鏡を備えるコンパクトであることが好ましい。

【0007】**【発明の実施の形態】**

以下、図面を参照して本発明の一実施形態を詳細に説明する。

【0008】

図1および図2はそれぞれ、本実施形態であるコンパクト10を示す斜視図および、蓋体に設けたヒンジ部から容器本体を示す一部断面図である。また、図3は、このコンパクト10をヒンジ部側から示す背面図である。なお、図4は、図2のA-A断面図である。

【0009】

コンパクト10は、例えば、ABS（アクリロニトリル - ブタジエン - スチレン）などの合成樹脂からなる大型のものであり、図2に示す如く、2つのドラムC1、C2およびアイブラシや紅ブラシなどの小物Tを収納する中枠11と、この別体の中枠11を収納可能な容器本体12と、この容器本体12の2箇所に回動自在にヒンジ結合される蓋体13とを備え、この蓋体13の内側には、図4に示す如く、鏡13mが取り付けられている。

【 0 0 1 0 】

またコンパクト 1 0 は、容器本体 1 2 に対して回動自在に支持されたフックピース 1 2 f を備え、蓋体 1 3 の閉じ状態では蓋体 1 3 に設けたフック部を容器本体 1 2 のフック部に引っ掛けて容器本体 1 2 に対してロックし、蓋体 1 3 を開く際にはフックピース 1 2 f を押して容器本体 1 2 に対するロックを強制的に解除する。

【 0 0 1 1 】

容器本体 1 2 に対する蓋体 1 3 の開き動作は、図 1 , 3 に示す如く、容器本体 1 2 に設けたヒンジ部 1 4 と、蓋体 1 3 に設けたヒンジ部 1 5 とを打ち込みピン 1 6 を介して回動自在に結合させることによって達成される。なお、打ち込みピン 1 6 は、蓋体 1 3 に設けたヒンジ部 1 5 または容器本体 1 2 に設けたヒンジ部 1 4 に対して一定の締め代（例えば、締まり嵌め）をもって圧入嵌合されるため、この打ち込みピン 1 6 の締め強度によって、回動する蓋体 1 3 に対しその回動に逆らう向きの開閉トルクを生じさせ、蓋体 1 3 が自重によって容器本体 1 2 に自由に回動しないようになっているが、この位置決め構造は任意のものである。

10

【 0 0 1 2 】

図 5 ~ 図 8 はそれぞれ、蓋体 1 3 の開き動作を図 2 の B - B 断面で示す作用図である。但し、図 5 (a) , (b) はそれぞれ、容器本体 1 2 に対して蓋体 1 3 を完全に閉じた状態および、そのときのヒンジ部周辺を拡大して示し、図 6 および図 7 はそれぞれ、容器本体 1 2 に対して蓋体 1 3 が 1 2 0 度だけ開いた状態および、容器本体 1 2 に対して蓋体 1 3 が 1 8 0 度だけ開いた状態を示す。また図 8 (a) , (b) はそれぞれ、容器本体 1 2 に対して蓋体 1 3 が最も開いた状態および、そのときのヒンジ部周辺を拡大して示す。

20

【 0 0 1 3 】

本実施形態において、蓋体 1 3 は、蓋体 1 3 に設けた 2 つのヒンジ部 1 5 にそれぞれ、このヒンジ部 1 5 周りに沿って形成された溝 1 5 n を有するものである一方、容器本体 1 2 は、この容器本体 1 2 に一体に収納された中枠 1 1 のヒンジ側部分に、これら溝 1 5 n に対応する 2 つの舌片 1 1 p を一体に有するものであって、これらの舌片 1 1 p はそれぞれ、蓋体 1 3 の回動に際し、溝 1 5 n に干渉することなく該溝 1 5 n の回動方向端縁 1 5 n (e) を越えたヒンジ部 1 5 周りに圧接する。この場合、溝 1 5 n は、蓋体 1 3 を開く際に、舌片 1 1 p がヒンジ部 1 5 周りを円滑に回動するためのガイドとして機能する。

【 0 0 1 4 】

従って、蓋体 1 3 を開く際には、中枠 1 1 に設けた舌片 1 1 p が蓋体 1 3 に設けた溝 1 5 n の回動方向端縁 1 5 n (e) を越えたヒンジ部 1 5 周りに対して圧接しているため、蓋体 1 3 が自重によって容器本体 1 2 に対して自由に回動して蓋体 1 3 が使用者の意思に反して閉じることがなく、例えば、蓋体 1 3 を 1 2 0 ° だけ開いた際に、舌片 1 1 p が溝 1 5 n の回動方向端縁 1 5 n (e) に圧接して、この蓋体 1 3 を開き角度 1 2 0 ° の位置に位置決めできる。さらに、蓋体 1 3 を 1 2 0 ° を越えて開く場合には、舌片 1 1 p は溝 1 5 n の回動方向端縁 1 5 n (e) を越えたヒンジ部 1 5 周りに対して圧接しているだけなので、好みの角度で蓋体 1 3 を保持することが可能になり、また、蓋体 1 3 の開き動作は勿論、閉じ動作も確保される。

30

【 0 0 1 5 】

なお、本実施形態の場合、舌片 1 1 p および溝 1 5 n を 2 箇所のヒンジ部 1 4 , 1 5 それぞれに設けたことにより、舌片 1 1 p および溝 1 5 n 間に生じる圧接力を大きくすることができる。しかも、この場合、ヒンジ結合する個数を 3 箇所以上に変更することにより、様々な大きさや重量の蓋体 1 3 に対応させることができる。また、本実施形態では、舌片 1 1 p の幅が溝 1 5 n に比べて小さく設定されているが、舌片 1 1 p および溝 1 5 n 間の圧接力を変更するに際して、舌片 1 1 p の幅が溝 1 5 n の幅とほぼ等しくなるように設定することが可能である。さらに、中枠 1 1 に舌片 1 1 p を一体成形したが、中枠 1 1 を用いなく、舌片 1 1 p を容器本体 1 2 と一体に成形することも可能である。

40

【 0 0 1 6 】

さらに、2 つの舌片 1 1 p はそれぞれ、図 8 に示す如く、蓋体 1 3 の回動に際し、溝 1

50

5 n に干渉することなく、弾性変形することによって溝 1 5 n の回動方向端縁 1 5 n (e) を越えたヒンジ部 1 5 周りに圧接する構造になっている。この場合、打ち込みピン 1 6 の締め代を調整することなく位置決めが可能となり、加えて、いずれの角度においても、蓋体 1 3 のスムーズな開閉が可能となる。

【0017】

ところで、コンパクトなどに用いたヒンジ式開閉容器は、その一端がヒンジ結合された構造であるため、例えば、本実施形態の如く大型化すると、ドラム C1, C2 および小物 T を取り出して蓋体 1 3 を開いたまま机やテーブルなどの接地面に載置しようとする場合、転倒しやすくなるという不都合がある。特に、こうしたコンパクト 1 0 にあっては、蓋体 1 3 の内側に鏡 1 3 m を配置しているため、コンパクト自体としての重心が蓋体 1 3 に移動して高くなり、こうした転倒の問題が顕著に表れる。

10

【0018】

そこで、本実施形態では、図 2 に示す如く、容器本体 1 2 は、蓋体 1 3 が開く際の開放側端部 1 2 e (f) と、ヒンジ部 1 4 を設けたヒンジ部側端部 1 2 e (b) との中間、即ち、開放側端部 1 2 e (f) から中心軸線 X に至る距離 L1 と、中心軸線 X からヒンジ部側端部 1 2 e (b) に至る距離 L2 とが等しくなる位置に中心軸線 X を有し、この中心軸線 X から開放側端部 1 2 e (f) までの開放側領域 S (斜線部分) 内に重心調整用の錘 2 0 を備える。

【0019】

錘 2 0 は、図 5 ~ 図 8 に示す如く、中枠 1 1 は、2つのドラム C1, C2 を収納する凹部 n1 と、小物 T を収納する凹部 n2 とを仕切る仕切壁 1 1 f と、この仕切壁 1 1 f からヒンジ部 1 4 の反対側に向かって突出するように設けられた小物 T を担持する天壁 1 1 c と、この天壁 1 1 c の末端から上方に起立して当該天壁 1 1 c に担持された小物 T の側面を押さえる上壁 1 1 u と、天壁 1 1 c の末端から容器本体 1 2 の底部 1 2 に向かって垂下する下壁 1 1 d とからなる、縦断面形状が H 型のドーム部 1 1 n の天壁 1 1 c と、容器本体 1 2 の底面 1 2 b とで画成された空間 R に収納されている。本実施形態の場合、錘 2 0 は、接着剤などを介して中枠 1 1 または容器本体 1 2 に取り付けられているが、コンパクト 1 0 を載置したときに錘 2 0 が容器本体 1 2 の底面 1 2 b に接触するものであれば、接着剤などを用いて空間 R 内に固定しなくともよい。また、他の形態として、錘 2 0 は容器本体の底面 1 2 b に埋め込んでよい。

20

【0020】

ところで本実施形態の錘 2 0 は、中心軸線 X に沿った容器本体 1 2 の幅方向全体に延在する板形のものである。特に本実施形態のように、錘 2 0 を板形とした場合、個々の錘を薄肉に形成すれば、複数の錘 2 0 を積層することによって重量を変更することができるため、重心の調整を容易に行うことができる。但し、錘 2 0 は、重心を調整するためのものであるところから、錘 2 0 の形状は板形状に限ることなく、円板状など様々な形状を採用できる。また錘 2 0 は、開放側領域 S1 内に配置できるものであれば、その大きさや個数は問わない。

30

【0021】

従って本実施形態によれば、容器本体 1 2 が、蓋体 1 3 が開く際の開放側端部 1 2 e (f) と、ヒンジ部 1 4 を設けたヒンジ部側端部 1 2 e (b) との中間に位置する中心軸線 X を有し、この中心軸線 X から開放側端部 1 2 e (f) までの開放側領域 S 内に重心調整用の錘 2 0 を備えることにより、例えば、本実施形態の如くコンパクトを大型化した場合、蓋体 1 3 を開いて容器本体 1 2 に収納したドラム C1, C2 や小物 T を取り出しても、コンパクト 1 0 を転倒させることなく、蓋体 1 3 を開いたまま机やテーブルなどの接地面に載置することができる。

40

【0022】

また本実施形態によれば、容器本体 1 2 が、その内部に別体の中枠 1 1 を備え、この中枠 1 1 と容器本体 1 2 との間に重心調整用の錘 2 0 を配置するものであることにより、中枠 1 1 の形状を変更するだけで、様々な形状の錘を取り付けることができる。

【0023】

50

さらに本実施形態は、蓋体 1 3 を開いた時に鏡 1 3 m によって重心が高くなるコンパクト 1 0 であるから、その転倒防止に最も有効である。

【 0 0 2 4 】

上述したところは、本発明の好適な実施形態を示したにすぎず、当業者によれば、請求の範囲において、種々の変更を加えることができる。例えば、コンパクトは、ABSなどの合成樹脂からなる中枠 1 1、容器本体 1 2 および蓋体 1 3 は、それぞれが異なる合成樹脂からなるものであってもよい。またコンパクトは、大型のものに限らず、ファンデーションやパフなどを収納する小型のものであってもよい。また中枠に収納する物品も化粧品などに限らず、様々なものを挙げることができるため、本発明に係るヒンジ式開閉容器は、例えば、錠剤などの薬品を収納するピルケースとして用いてもよい。

10

【 0 0 2 5 】

【発明の効果】

従って、本発明であるヒンジ式開閉容器によれば、容器本体が、蓋体が開く際の開放側端部と、ヒンジ部を設けたヒンジ部側端部との中間に位置する中心軸線を有し、この中心軸線から開放側端部までの開放側領域内に重心調整用の錘を備えることにより、例えば、ヒンジ式開閉容器を大型化した場合、蓋体を開いて容器本体に収納した物品を取り出しても、ヒンジ式開閉容器を転倒させることなく、蓋体を開いたまま机やテーブルなどの接地面に載置することができる。

【 0 0 2 6 】

また本発明によれば、容器本体が、その内部に別体の中枠を備え、この中枠と容器本体との間に重心調整用の錘を配置するものであることにより、中枠の形状を変更するだけで、様々な形状の錘を取り付けることができる。

20

【 0 0 2 7 】

さらに本発明は、蓋体を開いた時に鏡によって重心が高くなるコンパクトであるから、その転倒防止に最も有効である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の一実施形態である大型コンパクトを示す斜視図である。

【図 2】 同実施形態において、蓋体に設けたヒンジ部から容器本体を示す一部断面図である。

【図 3】 同実施形態をヒンジ部側から示す背面図である。

30

【図 4】 図 2 の A - A 断面図である。

【図 5】 (a) , (b) はそれぞれ、図 2 の B - B 断面にて、容器本体に対して蓋体を完全に閉じた状態を示す作用図および、その拡大図である。

【図 6】 図 2 の B - B 断面にて、容器本体に対して蓋体を 1 2 0 度だけ開いた状態を示す作用図である。

【図 7】 図 2 の B - B 断面にて、容器本体に対して蓋体を 1 8 0 度だけ開いた状態を示す作用図である。

【図 8】 (a) , (b) はそれぞれ、図 2 の B - B 断面にて、容器本体に対して蓋体を最も開いた状態を示す作用図および、その拡大図である。

40

【符号の説明】

1 0 大型コンパクト

1 1 中枠

1 1 c 天壁

1 1 u 上壁

1 1 f 仕切壁

1 1 d 下壁

1 1 p 舌片

1 1 n ドーム部

1 2 容器本体

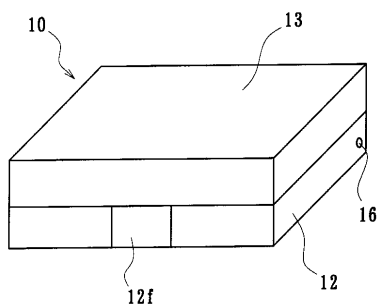
1 2 b 底面

50

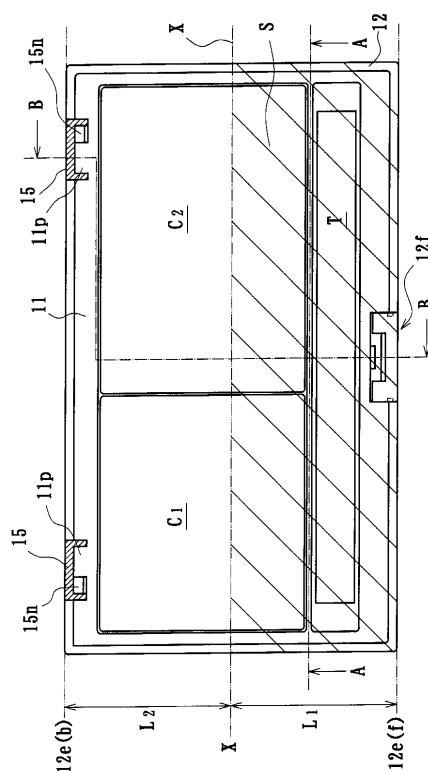
- 1 2 f フックピース
 1 2 e (f) 開放側端部
 1 2 e (b) ヒンジ部側端部
 1 3 m 鏡
 1 4 ヒンジ部 (容器本体)
 1 5 ヒンジ部 (蓋体)
 1 5 n 溝
 1 6 打ち込みピン
 2 0 重心調整用の錘
 n 1 ドラムを収納する凹部
 n 2 小物を収納する凹部
 L 1 開放側端部から中心軸線に至る距離
 L 2 中心軸線からヒンジ部側端部に至る距離
 R 空間
 S 中心軸線から開放側端部までの開放側領域
 X 中心軸線

10

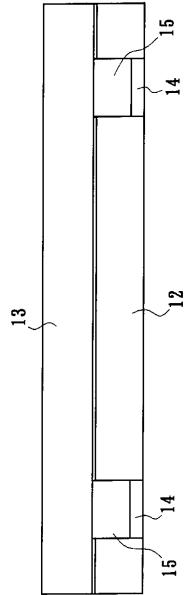
【図 1】



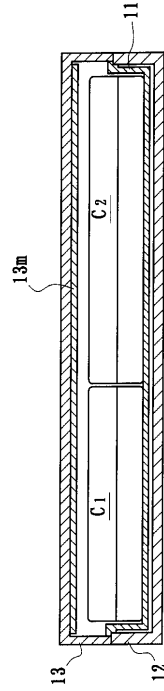
【図 2】



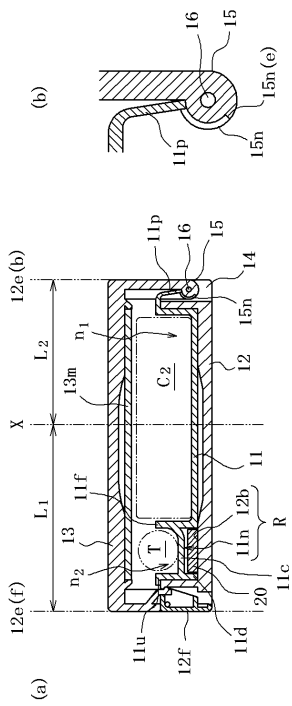
【 図 3 】



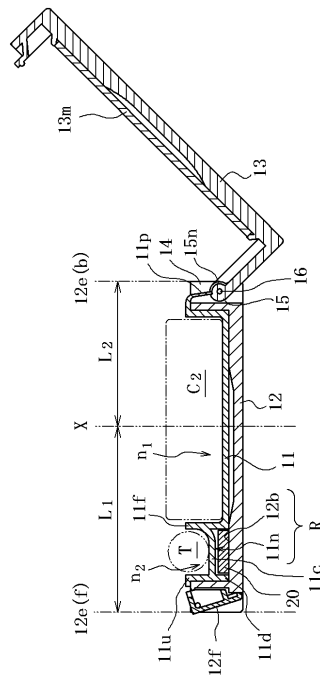
【 図 4 】



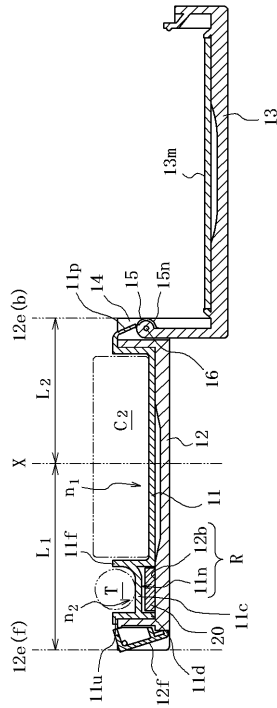
【 図 5 】



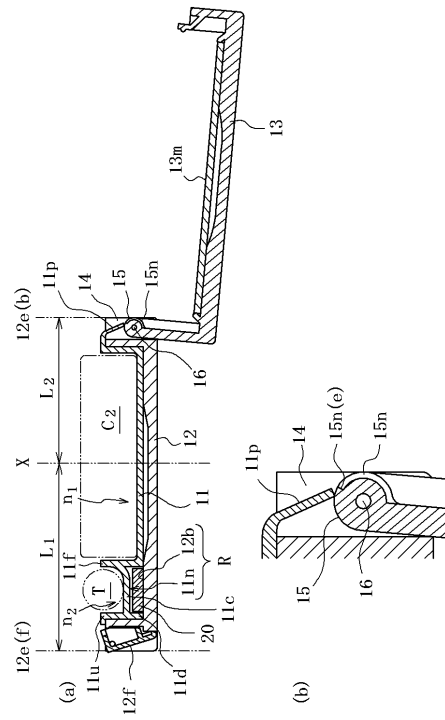
【 図 6 】



【図 7】



【図 8】



フロントページの続き

審査官 白川 敬寛

(56)参考文献 実開平03-078417(JP,U)
実開平01-145311(JP,U)
特開平09-056451(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D 35/44-35/54
B65D 39/00-55/16
A45D 33/00